



大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

M I Z U K I

医療連携室ニュース「みずき」

[volume]

28

2015 SPRING

contents

新診療科のご案内

ホットラインのご紹介

救急車始動

「連携強化のつどい」開催の予告

「連携医療機関登録制度」の登録募集

FAX送信時のご注意

編集後記

◎診療科名称変更のお知らせ

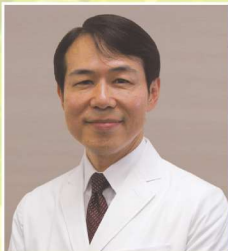
平成27年4月1日から、一部の診療科名称を変更いたしました。

(旧)		(新)
総合内科	⇒	「総合診療科」
消化器外科	⇒	「一般・消化器・小児外科」
一般・乳腺・内分泌外科	⇒	「乳腺・内分泌外科」

各診療科のカバーする分野・疾患領域を、より分かりやすく表現するため、診療科名を変更いたしました。

今後とも変わらぬご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

総合診療科



総合診療科 科長
鈴木 富雄
(すずき とみお)

診断がつかない症例など、多様で幅広い状況に対応

本年4月1日より総合内科の診療科名が総合診療科に変更となりました。地域の医療機関の皆様方にも、この機会に改めて当科での診療内容をお話しさせていただきます。

当科では発熱や頭痛など頻度の高い徴候、全身倦怠感や多関節痛など症状が全身に渡り適切な受診専門科が選択しにくい場合、不明熱や原因不明の高CRP血症など他の医療機関でご精査していただいたうえで診断がつかない症例など、多様で幅広い状況に対応しております。外来部門のみならず入院病床を持ち、院内の各専門科と柔軟な診療協力体制を保ちながら、多臓器にまたがる複雑な状況にも迅速かつ適切に対処しております。

大学病院の総合診療科として、地域の医療機関の皆様方との関係性を極めて重要なものと考え、皆様方がお困りの問題に対して「迅速に答えを出して適切な方向性を示す」診療科として尽力させていただき所存です。ご紹介いただいた患者さまには最善の対応をさせていただいたうえで、紹介元の先生方には詳細な報告書を送らせていただいております。お困りの症例などございましたら、是非積極的にご紹介いただければ幸いです。

また、主にレジデントや若い医師を対象としたカンファレンスや勉強会も頻回に開催しており、毎週木曜日の夕方17時から、1時間ほど外来中心の症例カンファレンスを開催しております。外部の先生方でもご参加は自由ですので、ご興味のある方はご出席ください。



拙著です。不明熱診療を得意としておりますので、当該症例などございましたら是非ご紹介ください。

一般・消化器・小児外科



一般・消化器・小児外科
科長
内山 和久
(うちやま かずひさ)

「一般・消化器・小児外科」が発足しました

「消化器外科」「一般・乳腺・内分泌外科」は、この4月より「一般・消化器・小児外科」と「乳腺・内分泌外科」に再編されました。今まで大阪医科大学は小児外科を標榜していませんでしたが、この春から小児外科専門医（京都府立医科大学平成6年卒業）と、若手小児外科医を迎え、小児外科が発足しました。早速、近隣小児科より患者さまのご紹介をいただき誠にありがとうございます。これで「一般・消化器・小児外科」では、新生児からご年配の方まで、食道、胃をはじめ、小腸から大腸・直腸・肛門にいたる消化管と、肝臓・胆嚢・胆管・膵臓・脾臓などの消化器臓器、およびヘルニアなどの一般外科治療がすべての年代で可能となります。

当科の特徴として、手術症例は年間1,300例以上と大学病院の単科としては西日本一多くの手術を行っています。また、消化器癌手術に腹腔鏡手術を積極的に導入（全手術症例の80%以上）して、患者さまに安全でやさしい外科治療を実践しています。また一方では、肝移植など高度な技術を要した先駆的な手術も行っています。

■ 大腸癌に対する腹腔鏡手術と肛門温存手術

大腸はその97%以上が腹腔鏡で、多くは3D手術映像システムを用いています。すでに3,000例以上と国内のみならず世界トップレベルの手術手技と症例数を誇っています。昨年の手術症例数は500例を越え全国第3位です。また、直腸癌は出来るだけ人工肛門を作らない手術を開発し、大変好評です。

■ 進行胃癌への腹腔鏡手術への応用

本院の胃癌の外科治療に関しては、腹腔鏡下胃切除術は1,500例を越え、腹腔鏡手術症例数は近畿地方で第1位です。従来は早期癌に症例が限られていた腹腔鏡手術を、ある程度の進行癌でも、高度なリンパ節郭清技術を伴った根治術を施行しています。今後ロボット手術を導入予定です。

■ 肝切除・膵切除への腹腔鏡アプローチ

肝癌に対しては、術前のCTから作成した3D画像解析によって切除法を決定し、さらに、がんの所在が判別できる5-ALAを用いて切離ラインの決定と転移巣の確認を行っています。胆嚢癌や肝門部胆管癌、膵頭部癌などに対する高難度手術の一方で、保険適応範囲内で約半数の肝切除術に腹腔鏡を導入しています。転移性肝癌に対する肝切除症例は近畿でトップです。

■ 単孔式腹腔鏡手術

胆石症の腹腔鏡手術も従来は腹部の4か所に穴を作成しておりましたが、強い炎症やがんが疑われることがない限り、臍部のみ1.5cmの切開からすべての手術を完遂する単孔式アプローチとし、術後疼痛の軽減に加えて、美容的見地からも高く評価されております。



Topic2 ホットラインのご紹介

24時間365日専門スタッフが対応いたします

循環器内科ホットライン

入院の必要な患者さまのご紹介にとどまらず、患者さまの診断・検査・治療方針などのご相談にも直接専門医が対応いたします。開設以来、たくさんの先生方にご利用いただいております。入院の必要性が高い患者さまについてのご連絡の他、当日受診の調整などのご相談にも是非ご利用ください。



脳卒中ホットライン



脳神経外科・脳血管内治療科・神経内科・救急医療部・麻酔科・集中治療部・放射線科・リハビリテーション科が密に連携して、脳梗塞・くも膜下出血・脳内出血など、すべての脳卒中の患者さまを受け入れます。

適切な治療を早期に開始するためにも、ホットラインを是非ご利用ください。

周産期ホットライン

産科医師が直接電話対応いたします。母体搬送の依頼など緊急性が高く入院の必要な患者さまのご紹介にとどまらず、患者さまの診断・検査・治療方針などのご相談にもご活用ください。本院では、分娩スタッフとNICUスタッフが常に連携を保ちながら、日頃から訓練されたチームワーク医療を行っております。



赤ちゃんの心臓ホットライン



近隣の病院・診療所の先生方の心臓病の赤ちゃんの診療に更にお役に立てるよう、簡便に即時性を持って常時対応の窓口となるホットラインを開設しております。地域を問わず病院・診療所の先生方からいただいたコールに担当の小児科医が対応し、緊急入院の手配や通常外来診察をご案内いたします。是非ご活用ください。

(本院は日本胎児心臓病学会 胎児心臓超音波検査専門施設です)

※詳細案内・ホットラインカード送付のご依頼は、医療連携室までご連絡ください

Topic3 救急車始動

本院では、27年2月より専任の運転手1名を迎え、救急車を始動いたしました。心臓や呼吸器疾患が疑われる新生児・乳児をはじめとした専門治療が必要と判断される患者さまの搬送に、医師が同乗のうえ救急車を活用してまいります。※ご利用に関しましては、患者さまの状態や優先順位等考慮したうえで医師の判断となります。まずはお気軽に各種ホットラインにご一報ください。また、事務運用面でのご相談に関しましては広域医療連携センターへご一報ください。

運行時間：平日 9：00～16：00





◎ 医療連携室からお知らせとお願い

■ 「連携強化のつどい」開催の予告

本年も連携医療機関さまとの意見交換の場として「連携強化のつどい」を開催します。

● クリニックさま対象：7月18日（土） ● 病院さま対象：9月19日（土） 詳細は別途お知らせいたします。

■ 「連携医療機関登録制度」の登録募集

本院が地域の医療機関さまと連携していることを患者さまにお知らせし、安心して医療を受けていただくことを目的として、「連携医療機関登録制度」を設けています。

平成27年4月1日現在で、87医療機関さま・322クリニックさま・190歯科クリニックさまのご登録をいただきました。詳しい内容につきましては、ぜひ医療連携室にお問い合わせください。

また、ホームページでもご確認いただけます。



大阪医科大学附属病院 トップページ → 医療機関さまへ → 連携医療機関登録制度のご案内

■ FAX送信時のご注意 ～誤送信について～

本院あてのFAXが一般家庭に届くことがしばしばあります。受取人から連絡があった場合は本院で引き取りに伺っておりますが、個人情報の漏えいにもつながりますので、FAX送信の際には今一度番号をお確かめのうえ、お送りください。また、医療連携室あての患者さま情報や、FAX予約申込書が他部署に届くこともございます。対応の遅れにもつながりますので、くれぐれもご注意ください。ご協力をお願いいたします。

編集後記

どうしたら良かったのか？相談を受けた。ついつい言ってしまう「ごめんなさい」の言葉。近くの別のメンバーが反応し「悪くもないことに詫びないで」と詰め寄られたという。謝れば私たちが悪かったことになるでしょう。そこは「ごめんなさい」じゃないでしょう。何かにつけて、つい謝ってしまうらしい。それが解決に早そうだから・・・状況をおさめる魔法の言葉？

帰国子女の少年は、言葉のハンディを取り返せず、学力水準が極端に低かった。同級生からは馬鹿にされ、仲間はずれ、いじめにあっていた。学校では机の中に給食のマーガリンやジャムがぬらされていたり、上履きが無くなることはいつものこと。雪が降れば積もった雪を服の中に入れられ、雨が降れば水たまりに顔をつけられた。その都度「ごめんなさい」と繰り返す。何度も何度も繰り返した。苦い私自身の遠い記憶、ふと思い返す。魔法の言葉なんかで、変わらない。状況から逃げるだけの意味のない「ごめんなさい」。何かもうひとつ別の言葉を探さないといけない。(M.M.)



医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00
土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先 FAX.072-684-6339

■ 連絡先

大阪医科大学附属病院

広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表)内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

● 本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●